第100号
平成30年8月29日

西宮市北六甲台地区
社会福祉協議会
会長　日高 昭夫

●発行/北六甲台地区社協●発行日/偶数月●編集/北六甲台地区社協広報部●配布エリア/北六甲台・上山口東

# 「ぬくもり」百号記念

## 進化を続けた手づくり広報紙の歩み

会長　日高昭夫

### 結成半年後の創刊

地区社協広報紙「ぬくもり」は本号で百号を迎えました。創刊は平成九年五月です。社協が北六甲台分区として結成されたのが平成八年十一月ですから結成後わずか半年後の創刊でした。先人たちの広報活動重視の姿勢が窺えます。

### ぬくもり充実化の歩み

ぬくもりは平成十三年には年二回発行が三回に、平成十八年には現在の年六号発行になりました。

平成二十四年の六十八号からはB五から現在のA四にサイズ拡大されました。また、翌年の七十二号から編集ソフトによる編集で現在の紙面構成に一新されました。

更に、平成二十八年六月号では初めてカラー版で通常の自治会ルートによる自治会員配布でなく、シルバーセンター委託による地区社協対象の全世帯向け配布を実施しました。以後、毎年六月号は全世帯配布を継続しています。

### 自前の編集＆印刷

「ぬくもり」は創刊以来、広報部員による自前の編集と印刷を続けています。そのため毎号三二〇〇部もの発行費用は紙代一万円程度です。

他地区では通常外部業者に発注し同規模の発行費用は八万円以上を要しています。

### 広報紙編集が私の原点

個人的にも地区社協役員に就任した平成二十年に広報部員として三十九号を担当して以来の「ぬくもり」とのおつきあいです。広報紙編集を通して幅広い情報と人脈を得られたことが私の社協活動の原点とも言えます。

# 「ぬくもり」創刊当時を振り返って

広報部長　小出　晴浩

七月十一日（水）、北六甲台コミュニティーセンターにて、広報紙「ぬくもり」創刊号の一九九七年頃に広報紙に関わった方をお招きし、お話を伺いました。今回お話を伺ったのは、当時、事業部で活躍されていた井澤さん、二〇〇三年から社会奉仕活動をしたいとの希望で広報紙作成を担当された暮石さんのお二人です。

お二人が広報紙作成に従事されていた頃、すでに世の中にはパソコンが出回っていましたが、当時はワードを用いてパソコン内で写真を切り貼りし、データの取り込みをされていたとのこと。暮石さんのパソコン技術のレベルの高さは、現執行部役員の上をいくほど優れていらっしゃったことと感服しました。また、創刊当初はワープロで打ち込んでいたため文字のフォントあわせにご苦労されていたようでしたが、お二人が担当されてからはワードを用い、フォント合わせの苦労も改善。大変頼もしく感じました。

十年ほど前に、広報部のOB会をされたとのこと。親睦を深める会が永く続きますことをお祈り申し上げます。

最後に、今回、情報をいただきました皆さま、ならびに、これまで広報紙作成に携わってこられた皆さまに、厚く御礼申し上げます。

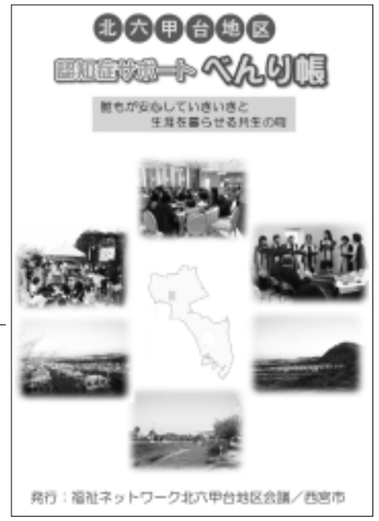
これからも、内容の濃い、わかりやすい広報紙作りに努めて参りたいと思います。





# 「認知症ケア」、地区社協で取り組み進む

## 「認知症サポートべんり帳」地区版を作成中




今、超高齢社会を迎えて、認知症になる方が増えています。そんな環境の下で、昨年の福祉ネット役員会で「認知症サポートべんり帳」作成の話が取り上げられました。

西宮全市版は既に作成・発行されていましたが、今回、地元の「相談窓口」「地域の活動やつどい場」「医療機関や薬局」「介護施設」等を掲載した「北六甲台地区版」を作成する事になりました。

今年一月、第一回作成委員会を開催し、その後、月一回のペースで見やすく、わかり易い「べんり帳」を目指し、来年三月の発行を目標に会議を重ねています。

認知症のご家族がおられる方は勿論の事、認知症が心配な方、そしてお元気な方にも手に取っていただき、いざという時にどのような方法が取れるのか等、事前に備えるという目線でも見ていただけるよう考えています。

今後も、いろいろな課題や問題点を、ひとつひとつ解決しながら皆さんに喜んでいただける「べんり帳」の作成に取り組んで参ります。

（福祉ネット北六甲役員・山脇のり子）

# 「認知症カフェ」、開設準備中！

「認知症カフェ」は、認知症の方やご家族・地域住民・専門職がつどい、お茶を飲みながら、認知症や介護のことなどを気軽にお話ししていただける場です。西宮市では、六か所の認知症カフェが開設。月一回～二回、認知症に関わる地域住民、運営ボランティア、福祉の専門職がお茶とお菓子をいただきながら、歓談したり介護の相談をしたりと、和やかで有意義な時間を過ごしています。

「山口地域にも認知症カフェを」との声が上がり、カフェ運営のボランティアを募集したところ十五名が登録。二月から月一回の会議で意見を出し合い、カフェの名前も『にこにこ丸山カフェ』に決定。現在、年内の開設を目標に、運営ボランティアと西宮市社協、山口・甲山地域包括支援センター、ななくさ白寿荘、コープ西宮北店の専門職で具体的な内容を詰めています。福祉ネット北六甲も応援しています。

『にこにこ丸山カフェ』は、コープ西宮北店三階の組合員集会室で毎月第四木曜日の午後十三時頃から一時間半程度、参加費百円（お茶・お菓子付き）で開設予定です。オープンは、チラシなどでお知らせします。ぜひ、気軽にお立ち寄りくださいね。

（広報部・小澤）

# 「敬老のつどい」から「敬老お祝い訪問」に

地区社協は、例年九月に開催していました「敬老のつどい」に代えて、新たに「敬老お祝い訪問」を実施します。

高齢化が進み、敬老のつどいの参加者が年々減少しています。会場の小学校体育館まで足を運ぶことが難しくなっているかと思われます。

そこで今年から皆様に会場にお越し頂く「催し」でなく、地区社協の関係者が対象者宅を訪問し、敬老のお祝い（赤飯パック）をお届けする活動に見直すことに致しました。

後期高齢者と呼ばれる七十五歳以上の皆様のお宅をお訪ねし、お声かけをするという趣旨です。

ところが地区社協では個人情報である七十五歳以上の方の住所・氏名等を把握できません。そこで事前に全戸配布のアンケート調査で「敬老お祝い訪問」希望者の意向をお尋ねしています。

八月末現在、対象者の約三十％の回答を頂きました。未提出の方にも今後引続き関係者がお訪ねしますのでご協力をお願いします。（日高）

# 地域住民の交流の輪広がった夏の一日

## 第三十三回　北六甲台盆踊り大会

### 澄み切った空の下

時折涼しい風が吹く八月十八日（土）、好天の下で今年も恒例の北六甲台盆踊り大会が行われました。

オープニングセレモニーの『劇団希望』による清らかな歌声が響き渡る中、可愛らしい浴衣姿の親子連れやお友だち同士等、たくさんの人が続々と会場のグラウンドに集まります。そして、盆踊りの曲が流れ始めると、踊りを眺める人、お目当てのお店へと足を運ぶ人と会場は一気にお祭りの熱気に包まれました。

### 活気あふれる模擬店

主催の北六甲台自治会はもとより、子ども会、中学部、婦人部、スポーツ21、県民交流広場、青愛協、水源池委員会の模擬店が出店されました。どのお店も開始早々からお客様が押しかけ、あっという間に長蛇の列が出来る店も。それぞれ、呼び混みの声にも熱が入ります。子どもたちのお目当ては、やはりゲームとくじ当て。順番を待っている時間も楽しそうです。今思えば、私にとっても盆踊りは、夏の一番の良い思い出です。

### 敬老席でのおもてなし

毎年、社協の敬老席は入り口付近に設けられているので、来客の方々は迷わずテントの下に集まってこられます。今年もお茶とお菓子のおもてなしを受け、すぐに話の輪が出来ていました。日頃、なかなかお会いできない方々と和やかに歓談され、皆さま楽しいひと時を過ごしておられました。また、今年は地区社協の障がい者支援事業「青い空」からお二人が介添えの方と参加され、盆踊りの曲や歌に合わせて体でリズムを取られている姿から、とても楽しまれている様子が伺えました。

### 今年の募金は三カ所で

昨年に引き続き、今年も募金活動を行いました。今年は、敬老席以外の二箇所に「西日本豪雨災害支援募金」の募金箱を設け、皆さまの善意で集まった募金一万二千二百十一円は、社協を通じ赤十字社へ贈られます。

ご協力いただき、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

（広報部・印南）

### 上山口東自治会「夏まつり」

８月２５日（土）、山口丸山公園で上山口東自治会の「夏まつり」が開催されました。午後6時、会場内にはたくさんの人が。やぐらの周りで踊る人、食べ物を買う人、ゲームを楽しむ子どもたち、ほろ酔い加減の大人たち…。皆それぞれにお祭りを楽しんでいる様子でした。

ボリューム満点の焼きそば、唐揚げ、かき氷など充実の屋台は、開店から1時間ほどで売り切れる店も出るほど大盛況！また、お楽しみ抽選会で当選した方々は笑顔で商品を受け取っていました。

地域住民で盛り上がった夏の一日でした。（広報部・小澤）





# アイマスク体験学習を実施

七月十日（火）、北六甲台小学校において、四年生を対象にアイマスク体験学習が行われ、西宮市社会福祉協議会の山本様ほかボランティア十六名が参加しました。

担任の先生と四年生の児童は、アイマスクを装着する者と誘導する者の二組に分れ、一階の靴箱前で交代しながら二階の教室に戻るコースで、体験学習が行われました。

途中の通路や階段上、階段の踊り場、階段下、靴箱付近にはボランティアが待機し、怪我をしないように児童の安全歩行を見守りながら指導にあたりました。

私も、日高会長とペアになり、アイマスクを装着して階段を昇ってみました。予めルートがインプットされていたため、あまり怖さは感じませんでしたが、左右に方向転換をする際のタイミングが難しいと感じました。

最後に、児童に感想を聞いてみたところ、「目の見えない恐怖感はあったけれど、ボランティアの方が見守ってくれる安心感から、楽しく学習できた」との声を聞き、ホッとしました。これからも、相手の気持ちに寄り添った介助を心がけたいと思います。

（広報部・小出）

# 「介護のすばる」公開講演会

## 地域の中で自分らしい暮らしをいつまでも

七月二十一日（土）、北六甲台コミュニティーセンターにおいて「介護のすばる」主催の講演会で、社会福祉法人「きらくえん」の名誉理事長、市川禮子（れいこ）さんのお話を聞きしました。

### 普通の生活を

市川さんは、高齢者福祉に携わること三十六年のベテラン。理想のノーマライゼーションを着実に築き上げて来られました。しかし、介護の世界に入るまでは主婦であったとのこと。小学校のPTA役員の実績を見込まれ、特別養護老人ホーム「きらくえん」から運営を手伝って欲しいと依頼を受けて、初めて介護の世界に入ることに。そこから、五十以上の病院施設を見学し、当時、日常的に行われていた高齢者に対する非人間的な行為に憤りを感じたそうです。

### 理念を運営方針で具体化

「介護の現場には理念が必要」と強く思われていた時、施設見学で赴いたデンマークで、「暮らしは一人ではなく地域の中で営まれ生活者として築いていくもの。障害を持ってもずっと変わらぬ普通の日常生活を保障するものである」というノーマライゼーションの考えと出会い、感銘を受けます。そして、このノーマライゼーションの考え方を理念に置き、「人権を守る」、「民主的運営」を施設の運営方針に掲げます。三十六年経った今も、その理念は変わっていないそうです。

### 変わらぬ思い

さらに、入浴や排泄時の同性介助によるプライバシーの確保や言葉遣いなど、高齢者への尊厳を徹底指導されたとのこと。また、地域との連携を図り、夜間外出や老人会への参加など、地域やボランティアの支えなしでは、理想の形が実現できなかったと話されていました。

二〇一四年に設立した「KOBE須磨きらくえん」は、ノーマライゼーションの理念のもとに「地域の中で自分らしい暮らしをいつまでも」と願い、設立された施設。建物・設備・自然環境・職員の教育など、あらゆる面で配慮がなされ、施設全体が温かい心で包まれています。

今回、この講演で市川さんのお話を伺って、改めて介護について考えさせられ、沢山の気づきを頂くことができました。「きえらくえん」のこれからの展開が、楽しみに思います。

（広報部・目瀬）